



サーバリックスまたはガーダシルを 受けられる方へ

やまもとクリニック

サーバリックスまたはガーダシルを受けられる
方へ

発行日：2013.6.30

平成25年度は定期予防接種となり、小学6年から高校1年相当の女子は公費助成が受けられます。

注 サーバリックスおよびガーダシル接種の際、非常にまれに注射後失神することがあり、注射後は30分院内で休んでから帰宅していただきます。最後のページの注意をご覧ください

①子宮頸がんの原因

ヒトパピローマウイルス（HPV）が発見されたのは1983年のこと。これにより、女性のがんとして世界では2番目に多い子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルスの一種が子宮頸部に感染することにより発症することが明らかになりました。この、「子宮頸がんを引き起こすパピローマウイルス」を発見した独がん研究センターのハラルド・ツア・ハウゼン名誉教授には、2008年度ノーベル生理学医学賞が授与されました。この研究成果をもとに予防ワクチンが開発され、現在、世界100カ国以上で使われています。我が国でもすでに340万以上の方に接種されています。

②子宮頸がんの予防

ワクチンとは、病気の原因となる細菌やウイルスなどをあらかじめ接種しておき、病気を防ぐ方法です。子宮頸がん（しきゅうけいがん）予防ワクチンは、発がん性HPVの中でも特に子宮頸がんの原因として最も多く報告されているHPV 16型とHPV 18型の感染を防ぐワクチンで、海外ではすでに100カ国以上で使用されています。日本では2009年10月に承認され、2009年12月22日より一般の医療機関で接種することができるようになりました。

感染を防ぐために3回のワクチン接種で、発がん性HPVの感染から長期にわたってからだを守ることが可能です。しかし、このワクチンは、すでに今感染しているHPVを排除したり、子宮頸部の前がん病変やがん細胞を治す効果はなく、あくまで接種後のHPV感染を防ぐものです。

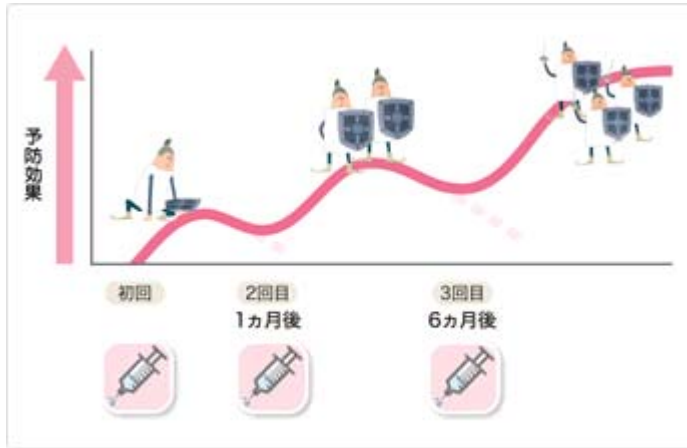
子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がんの原因となりやすいHPV 16型とHPV 18型のウイルスに対する抗体をつくらせるワクチンです。なお、このワクチンに含まれるウイルスには中身（遺伝子）がないので、接種しても感染することはありません。

③ウイルスとワクチン

ウイルスなどが体に入ってくるとそれを攻撃する物質（抗体）ができますが、抗体を作るまでには少し時間がかかります。また、抗体をつくらせないように上手く隠れることができるウイルスもいます。ワクチンを接種することで、ウイルスなどが体に侵入してきた時にいち早く反撃するために、あらかじめウイルスなどに対する抗体をつくらせておくことができます。

子宮頸がん（しきゅうけいがん）予防ワクチンは、肩に近い腕の筋肉に注射します。1～2回の接種では十分な抗体ができないため、半年の間に3回の接種が必要です。しかし、接種期間の途中で妊娠した際には、その後の接種は見合わせることでされています。

子宮頸がん予防ワクチンの接種は半年で3回接種が必要です。



図：接種スケジュールと感染予防効果

子宮頸がん(しきゅうけいがん)予防ワクチンは、肩に近い腕の筋肉に注射します。1～2回の接種では十分な抗体ができないため、半年の間に3回の接種が必要です。しかし、接種期間の途中で妊娠した際には、その後の接種は見合わせるかとされています

- 主な副反応**
- 頻度10%以上 : かゆみ、注射部分の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状(吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など)、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労
 - 頻度1～10%未満 : 発疹、じんましん、注射部分のしこり、めまい、発熱、上気道感染
 - 頻度0.1～1%未満 : 注射部分のピリピリ感/ムズムズ感
 - 頻度不明 : 失神・血管迷走神経発作(息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど)



重い副反応として、まれに、アナフィラキシー様症状(血管浮腫・じんましん・呼吸困難など)があらわれることがあります。

ワクチンを接種した後は、注射した部分が痛むことがあります。注射した部分の痛みや腫れは、体内でウイルス感染に対して防御する仕組みが働くために起こります。通常数日

ワクチンの効果がどのくらい続くのか、追加接種が必要かどうかについては、まだはっきりとわかっていません。今のところ、ワクチンを3回きちんと接種した人では、最長で6.4年間は、HPVの感染を防ぐのに十分な量の抗体ができていることがわかっていますので、最低20年は効果が続きます。

子宮頸がん予防ワクチンを接種することでHPV16型とHPV18型(2価)の感染を防ぐことができますが、全ての発がん性HPVの感染を防ぐことができるわけではありません。そのため、ワクチンを接種しなかった場合と比べれば可能性はかなり低いものの、ワクチンを接種していても子宮頸がんにかかる可能性はあります。子宮頸がんを完全に防ぐためには、子宮頸がんワクチンの接種だけでなく、定期的に子宮頸がん検診を受けて前がん病変のうちに見つけることが大切です。ワクチン接種後も、年に1回は子宮頸がん検診を受けるようにしましょう

④サーバリックスについての質問について

予防接種の時期がずれてしまったときは

予防ワクチンの接種は、0カ月、1カ月後、6カ月後の計3回が基本です。ただし、何らかの理由で接種がずれてしまった場合は、気付いた時点で接種を再開し、必ず3回の接種が必要です。なお、接種間隔がずれてしまっても、最初から接種をやり直す必要はありません

他のワクチン接種との間隔

はしかや風しんのワクチンなど、生ワクチンの接種を受けた場合は、通常27日以上、インフルエンザワクチンのような不活化ワクチンの接種を受けた場合は、通常6日以上間隔を置いてから予防ワクチンを接種します。また、このワクチン接種後には、通常7日以上間隔を置いて他のワクチンを接種します。

何歳から接種するのが良いですか

子宮頸がんの原因と考えられている「HPV（発がん性ヒトパピローマウイルス）」は性交渉で感染すると考えられています。予防ワクチン接種は、性交渉経験前が最も効果的であると言われています。なお予防ワクチン接種の対象は10歳からです。

HPVに自然感染しても十分な免疫が獲得できないため、何度でも感染するリスクがあります。したがって、過去にHPVに感染した人でも未感染の人と同様、予防ワクチン接種により十分な免疫を獲得でき、高い予防効果が期待できます。なお、日本産婦人科医会では、45歳までの女性の接種を推奨しています。

もし接種途中で妊娠した場合は

妊娠がわかった時点で予防ワクチンの接種を中断してください。ただし残った接種回数については、最初から接種しなおす必要はなく、1回目接種後に妊娠した場合には出産後に2回目を、さらにその5カ月後に3回目を接種します。また2回目接種後に妊娠した場合には、出産後に3回目を接種します。詳しい接種スケジュールに関しては、医師にご相談ください。

妊娠やその可能性がある場合には、接種は控えてください。また出産後は、健康状態がよければ接種可能ですが、授乳中接種の安全性はまだ確かめられていません。授乳中の接種については医師にご相談ください。

ガーダシルとは

GARDASIL はヒト・パピローマウイルス(HPV)のうち 6型, 11型, 16型, 18型(4価)が関与して起こりうる次の疾患の予防に役立つ予防接種です。子宮頸ガン・子宮頸部の前癌病変や異形細胞病変腫の前癌病変・尖圭コンジローマです。子宮頸ガンに対する予防効果はサーバリックスと変わらないとされています。

ガーダシルの使用方法

上腕三角筋の筋肉内に注射します。合計3回の注射で完了します：
 1回目：2回目は通常2ヶ月後、3回目は6ヶ月後で、サーバリックスと2回目の時期が異なります。6か月で3回接種することは同じです。なお、ガーダシルは接種スケジュール通りが出来ない場合は2回目の接種を初回から最短1か月、3回の接種は2回目の接種から3か月であれば抗体反応に影響なく、通常の効果を得られるとされています。

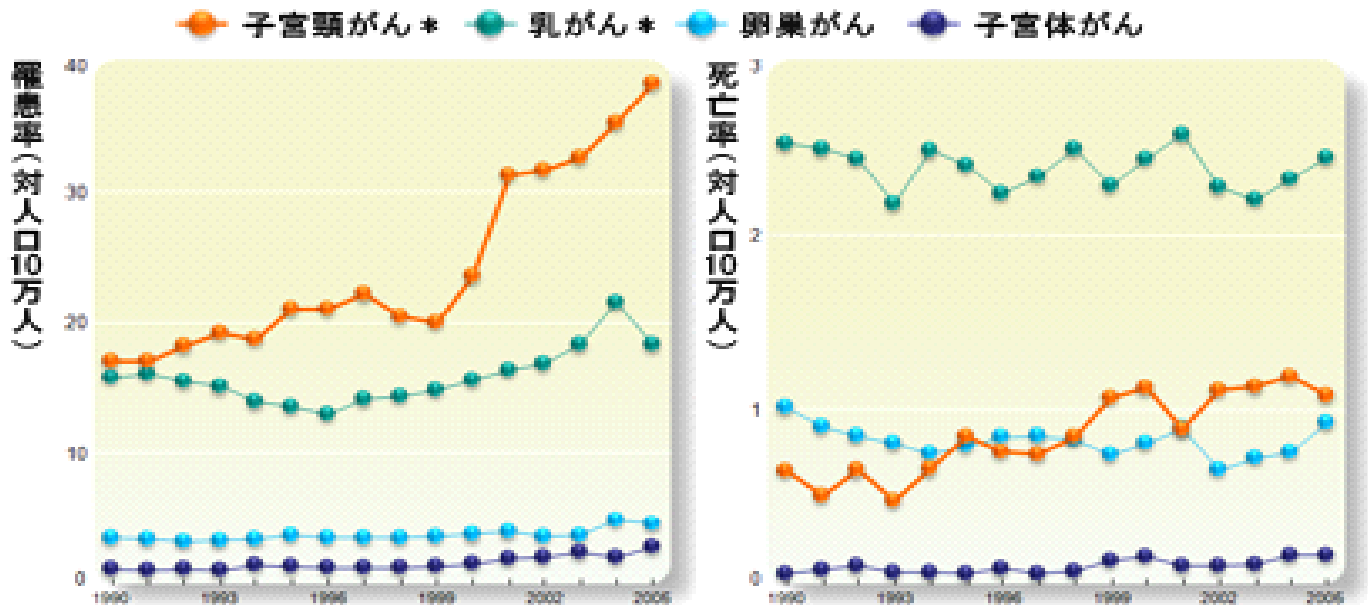
小学6年から高校1年の女性ではガーダシルも公費助成の適用になります。

サーバリックス及びガーダシルを使用出来ない人

- ・ このワクチンにアレルギー反応を示したことがある。
- ・ 接種期間中に妊娠の可能性ある、妊娠の予定がある。
- ・ 37.5℃以上の熱がある。

下のグラフのようにこの数年子宮頸がんが増加しています。是非予防注射を接種しましょう。

女性特有のがん：罹患率と死亡率の推移



* 上皮内がんを含む

国立がんセンターがん対策情報センター 地域癌登録全国推計による癌罹患データ(1975年～2005年)より作図
 国立がんセンターがん対策情報センター 人口動態統計による癌死亡データ(1958年～2007年)より作図

*3回のワクチン接種でガーダシルかサーバリックスか何れかの1剤で行い、接種途中で別のワクチンに変更はできません。

注意

平成25年6月14日に厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応部会が開催され、ヒトパピローマウイルス感染症の定期接種の対応について、厚生労働省から通知がありました。

このワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛がヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン接種後に特異的に見られたことから、同副反応の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではないとされたところである。

ついては、ヒトパピローマウイルス感染症の定期接種に関し、当面の有効性及び安全性等について十分に説明した上で接種することを周知すること。

なお、ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種の中止ではありません。

当院も子宮頸がんワクチン接種しています。ご連絡ください

やまもとクリニック 〒214-0013 川崎市多摩区登戸新町4-0-4

メール：9008760@yamamoto-clinic.jp / ホームページ：yamamoto-clinic.jp